

私たちは悪の凡庸さを越えられるのか？

～精神科医療・精神科病棟をとりまく事件に関して思う事～

滝川病院事件がマスコミで騒がれていますが、40年前に宇都宮病院事件が起きています。宇都宮病院事件のことは、私はまだ精神科医になりたての時に衝撃を受けました。でも、私は大きな声を上げることなく、精神科病院で医師として自分は安全に過ごしていました。滝川病院事件は、そんな私に「お前は何をやってきたのだ」と突き付けているようです。

ドイツ系ユダヤ人であるハンナ・アーレントが、ナチス・ドイツのやったことに対して「悪の凡庸」という言葉を使っています。「悪は特定の狂信者や極悪人によってではなく、ごく普通に生きていると思いついての平凡な一般人によって引き起こされる…」今一度、皆さんとともに日本の精神科医療を考え抜いてみたいと思います。(夏苺先生からひと言)

講師 夏苺郁子氏 なつかり いくこ



北海道札幌市生まれ。1981年、浜松医科大学医学部卒業、2000年、やきつべの径診療所を開設。児童精神科医(子どものこころ専門医機構 認定専門医)、医学博士精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、日本児童青年精神医学会認定医、日本統合失調症学会会員、日本うつ病学会会員、日本疫学会会員。

著書『人は人を浴びて人になる』(ライフサイエンス出版)、『心病む母が遺してくれたもの』(日本評論社)、『もうひとつの「心病む母が遺してくれたもの」』(日本評論社)

論文「人が回復するということ」精神神経誌 113巻9号、「家族として、当事者として、そして精神科医として—日本精神神経学会の皆様へお伝えしたいこと」精神神経誌 第117巻第3号 他

訳書『認知療法入門』(星和書店、共訳)、『いやな気分よ、さようなら』(星和書店、共訳)

日時：2023年11月3日(金・祝)午後2時~4時

場所：大阪YWCA梅田 二階ホール 〒530-0026 大阪市北区神山町 11-12

☆地下鉄堺筋線扇町駅より 出口②Aから公園通りを西へ徒歩5分
☆地下鉄谷町線中崎町駅より 出口①から南へ徒歩5分



- ◆参加費 300円
- ◆ご来場には、公共交通機関をご利用ください。

問い合わせ先

大阪教区事務所
(電話 06-6761-8562)
世話人 井上隆晶
(電話 090-2015-2687)
世話人 申英子
(電話 090-3829-7855)